

第4回 医療国際展開タスクフォース 議事概要

■日 時：平成27年6月26日（金）17：00－17：50

■場 所：永田町合同庁舎1階共用第1会議室

■出席者：

議 長：和泉内閣官房健康・医療戦略室長

構成員：松永内閣官房内閣審議官、池永総務省情報流通行政局審議官、佐藤外務省経済局審議官、尾池外務省地球規模課題審議官、常盤文部科学省研究振興局長、飯田厚生労働省大臣官房審議官／内閣官房健康・医療戦略室次長、富田経済産業省商務情報政策局長、山本一般社団法人 Medical Excellence JAPAN (MEJ) 理事長

関係者：蝦名観光庁審議官、戸田独立行政法人国際協力機構（JICA）人間開発部長、木村株式会社国際協力銀行（JBIC）執行役員産業ファイナンス部門長、山口独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）サービス産業部サービス産業課長

事務局：中垣次長、藤本参事官、堀内企画官、平野補佐、水谷補佐、安中補佐（以上、内閣官房健康・医療戦略室）

■概 要：

1. 議長冒頭挨拶

- 本日は4つの議題を予定している。主な議題は「（1）日メコン首脳会議に向けた検討」と「（2）国際保健政策2016-2020の策定に向けて」の2つである。
- （1）について、7月4日に日メコン首脳会議が東京で開催される。メコン地域はASEAN健康イニシアチブの実現においても中核地域。7月の首脳会議において、今回、医療分野での日本の協力の方向性を盛り込んで頂きたい。
- （2）については、9月の国連総会にて我が国の新たな国際保健政策を発表することを目指して、「国際保健政策2016-2020」の策定作業を開始する件。今後タスクフォースで議論していくので、関係省庁の協力をお願いしたい。

2. 日メコン首脳会議に向けた検討

- 7月4日の日メコン首脳会議に向けて各省連携を進めている。
- 基本コンセプトは、日本として推進しているUHCの実現をメコン地域でも支援していくこと、そして日本が優位な質の高い医療によって医療水準の向上に取り組むことである。
- メコン地域は各国によってニーズが異なるので、ニーズに合わせた支援を行う。

3. 国際保健政策2016-2020の策定に向けて

- 現行の国際保健政策2011-2015は、5年で50億ドルの保健資金を活用し、「人間の安全保障の実現を通じたミレニアム目標達成のため、その課題解決に焦点を当てた効果的・効率的な支援の実践」というビジョンを掲げている。また、2013年発表の国際保健外交戦略は、UHCを中心とした保健外交戦略の考え方をまとめて上記政策を補完したものである。これらを受け継ぎつつ、

また開発協力大綱の下に位置づけられる課題別政策として、「国際保健政策2016-2020」を今後、各省等協力の下で作成していく。

4. インバウンドの取組状況

- インバウンド・ワーキンググループでは、「医療渡航支援企業の認証及び渡航受診者受入医療機関の外国への情報発信に関する考え方ー医療渡航支援企業認証等ガイドラインー」を作成し、公開した。テーマは2つで、1つは受入医療機関をリスト化し対外的にどう発信するかということと、外国からの医療渡航者を一気通貫で支援する医療渡航支援企業を「見える化」することである。
- ガイドラインで定める認証組織として、MEJが活動することになった。

5. アウトバウンドの取組状況

- 各省が取り組んでいるアウトバウンドの案件について、進捗状況を確認し、今後も引き続き各省が連携して取り組むことを確認した。
- 栄養改善事業の国際展開は、健康・医療戦略に盛り込まれており、ロンドンオリンピックに引き続き、東京オリンピックに向けて官民連携で栄養改善事業を推進する。3月に検討会を開催し、4月にオランダのAIMを視察した。

以上